



・荒井塾長あいさつ

私の弱点

現役の頃にお客の前でプレゼンをやった。元は鉄道車両設計技術者だから、人前でしゃべる事など必要なかった。サラリーマン人生の半分は海外案件担当だった。

顧客の鉄道会社、運輸省の役人前で、会社、製品をアピールする。1対1の時はいいが、何社も競争で、入札前の売り込みプレゼンテーションになると、ものすごいプレッシャーを感じた。しかも苦手な英語で、時にはインドネシア語で。相手にはインドネシア語の方が理解してもらえるのでなるべく現地語でやった。



本番前はホテルの洗面所の鏡の前で繰り返し練習した。

本番になって自分の番が来ると心臓がドキドキした。競争相手のプレゼンの内容を聞いている余裕はないので、秘書に要点を聞き取って貰って、質疑に備えた。パソコンがない時代はOHP（オーバーヘッドプロジェクター）というのがあった。スライドか紙芝居のようなものだった。今よりもゆったりした流れだった。台紙をプロジェクターの上に乗せてしゃべる。一枚一枚差し替えていく。

50年勤務した会社を退職して、その後もマレーシア、エジプトでプレゼンを経験したが、これは一人でいわば個人事業主だから、会社から命令されてやっているわけではないので、あまりプレッシャーを感じなかった。聴衆や相手が誰だか知らない人たちが多かったので、気楽にやれたと思う。現役の時の経験が役立った。マレーシアではインドネシア語が通じるのでやりやすかった。相手も「お前マレーシア語が分かるのか」と嬉しそうに話しかけてきた。

もう、人前でかきこまって話す事もないと思っていたら、笑楽日塾が始まった。これは対面だから落ち着いてやれたと思う。しかし、その後、オンライン公開講座が始まって、画面を動かしながら、画面だけを見てしゃべるのは聴衆の反応も分からず苦労した。自然体で気楽にやればいいものを、分かっているてもそれが出来なかった。何故だろうか。

私の弱点は、

1. 他人の前で、自分をカッコよく見せようとする事である。
2. よく思われたい、もっと上手くやりたい、良かったと言って貰いたい。
3. 自分を実力以上に見せようとして、人前で上がって、本来の力を発揮できず、汗かいてあとで、こうすれば良かったとうなだれている事が何度もあった。

そこで、ようやく分かってきたのは、次のような事である。
挨拶もプレゼンも無理にかっこよくする必要は無い。原稿があれば、それを読み上げれば良い。原稿なしで、すらすらと話せれば良いが、うまく言葉が繋がらないのであれば、読み上げれば良いじゃないか。年寄りがかっこよく見せようと思っても、誰も期待通りには見てはくれない。白髪頭で、顔はしわだらけ、声はダミ声で聞きにくい、そんな老人の外観から聴衆は判断する。だから、せめて中身だけでも充実し、拍手が起きるぐらいの価値ある話にしたいと欲張る。それは原稿を見ながらしゃべっても、原稿を見ずにしゃべっても、価値は変わらない。理解出来る内容だったか、聴きにきた価値のある話だったかが勝負だ。気取る必要は無い。

講演などではなく、町会、近隣のマンションの会議、自分のマンションの中の会議など身近な所でも、これからは、どんなに短い挨拶でも、必ず原稿、メモ書きを事前に用意する。そうすれば、何をしゃべれば良いのか分かっているので、落ち着いてしゃべれるだろう。いま、オンライン講座を終了して、ようやく気がつきました。

オンライン公開講座を20回やって、その都度、塾長挨拶、結びの挨拶というのをやった。毎回、上手くやろうとして、満足出来なかった。リビングで練習をやっているのも愚妻も聞いている。ケーブルテレビで放送するときは、また女房に観られる。あれこれつままれる。そのような失敗ばかり繰り返してきた。

もうこれが私の人生最後の講演になるだろうという機会が7月25日に川口駅直結のキュポラであった。

これは90分(45分+10分休憩+45分)の講演で対面だった。最初の切り出し2~3分と最後の結び3~4分が一番重要なので、繰り返し練習した。語りに夢中になって、画像送りがチグハグになるなど失敗の繰り返しだった。その日の朝も何回も練習した。そしてついに原稿を見ずに語りと画像送りのタイミングが一致して、完璧と思える出来具合だった。ようやく弱点を克服した。しかし、これが最後の講演になるだろう。

皆さんの弱点は何ですか？



「報告事項」

1. 笑楽日塾7月 Zoomオンライン塾会報告

2名の塾生の方々がTV放映されました。

①、荒川徳広さんの「プロが教える美味しいビールの飲み方」

期間 7月22日(金)~28日(木)

時間 10時~11時と 20時~21時 1日に2回

番組名 ウィンクパラダイス

② 先崎隆塾生「わらてつまつり・紙電車デザインコンテスト」

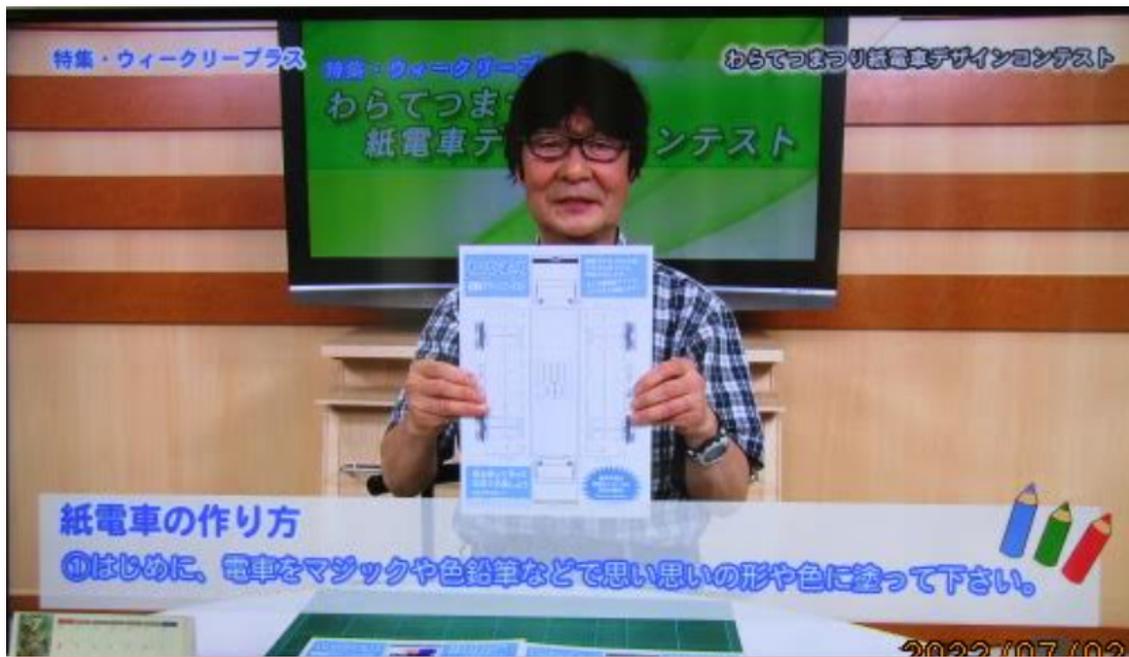
期間 7月1日（金）～7日（木）

時間 9時 12時 15時 18時 21時 毎時20分から10分間

番組名 「ハローわらび」の特集・ウイークリープラス

蕨ケーブルビジョン株式会社・青木課長の撮影・編集による秀作です。
商工生活室折口さんの「わらてつまつり紹介」、先崎さんの「紙電車の作り方」は広報課酒寄さんのアドバイスを入れて、ケーブルテレビのスタッフの熟練した撮影と構成編集技術により、分かりやすい番組に仕上がると思います。







「シニアの風」

(順番制で行います。7月「シニアの風」投稿は 吉田 喜義塾生です)

【唱歌「牧場の朝」は岩瀬牧場が発祥】

新井 邦夫

姉が住んでいる福島県鏡石町では、朝・昼・夕に防災無線から「牧場の朝」が流れます。



ご存知の方も多い唱歌である「牧場の朝」は、鏡石町にある岩瀬牧場が発祥であるそうです。

かつてここは荒れ果てた土地でしたが、那須疏水が作られたことにより開拓されました。

敷地内には、尖がり帽子をかたどった建物や、牧場の歴史を紹介する看板などが立てられています。

散策のおり、同牧場に立ち寄り場内の施設や大きなプラタナスの木々を目の当たりにすると、100年を超える歴史を感じます。

また、資料館ではオランダより贈られた大きな「鐘」を見ることができ、近くの公園では「牧場の朝」の歌碑も見ることが出来ます。



義兄が「牧場の朝・オランダ交流会」のボランティアとして活動していたこともあり、個人的には「唱歌と鐘と岩瀬牧場」の関係について興味が深いため、その成り立ちについてお話ししたいと思います。

(以下、岩瀬牧場発行の「岩瀬牧場の歴史を今に」“明治・大正のロマン香る岩瀬牧場”発行：岩瀬牧場 平成18年7月6日より引用【】部分)

【1. 明治9年、明治天皇は第一回東北巡業で矢吹が原と言われたこの地の開拓を命じた。内務大臣の伊藤博文が宮内省御開墾所を創設し大規模開拓の適地として計画、巨額の国費を投じたが、効果が上がらず福島県に管理を委任。



2. 明治19年、宮内省御料局岩瀬出張所開設し開墾計画策定された。このころ 農耕用として北海道新冠牧場、千葉県高堀牧場を含め3か所が指定された。

3. 明治23年、国営管理地であったこの御料地を一個人より拝借申し出があり監理などの国費負担を考慮し申し出を許可した。 申出人は岸和田藩最後の藩主、岡部長職（おかべながもと）の管理地となり初の民間牧場経営者として明治23年から昭和4年まで経営。



4. 地元村長は岡部の民有地が利用できなくなり、農業経営が成り立たなく鏡石村長他2村長と岡部民有地の一部返還を求める拝借願書を御料局に申し出許可された。】

～～ 前置きが長くなりましたが、やっと鏡石村にたどり着きました。 ～～

町制施行は1962（昭和37年）面積は蕨市の約6倍、人口は約1/6。

現在の牧場は観光地としての様相で牛が数頭と生乳精製時の建物や機具が大切に保存されております。

【「牧場の朝」の原点は鐘



唱歌の鍵となる「鐘」は、明治40年（1906年）ホルスタイン種牛13頭をオランダより輸入し欧米式酪農経営がすすめられた。（当時1頭2,000円、現在＝760万円 明治1円＝現在3,800円）



オランダでは外国がホルスタインを購入した際には「鐘」を贈る風習があり、岩瀬牧場にも贈られた。（鐘は町指定文化財として牧場歴史資料館に保存されている）

作詞／杉村楚人冠 作曲／船橋栄吉

The image shows a musical score for the song 'Dawn of the Pasture'. It consists of two staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 4/8 time signature. The tempo is marked as quarter note = 132. The first staff begins with a dynamic marking of *mf*. The lyrics 'ただいちめにたちこめたまきばのあ' are written below the notes. The second staff is in bass clef and begins with a dynamic marking of *p*. The lyrics 'ただいちめにたちこめたまきばのあ' are written below the notes. The second staff ends with a dynamic marking of *mf*.

歌詞は誰が？杉村廉太郎（杉村楚人冠）で朝日新聞記者。岩瀬牧場を訪れた際、連載原稿（5編）の中の「牧場の暁」が元とされている。

曲は誰が？ 船橋栄吉 昭和5年（1932年）文部省視察兼教科書編集委員に委嘱され作曲を命じられた。（音楽才能があり、ドイツ・ベルリン国立音楽学院に留学。東京音楽学校教授 他）その後、小学生唱歌として4年生の音楽教科書に掲載されたとのことです。】

かつては草原にひびく鐘の音が、乳牛の世話をする人々の心を癒していたのではないのでしょうか。牧場からの帰り道、田畑の広がる風景が、60年ほど前の蕨の様子と重なり、懐かしい気持ちになりました。

似たような事例が6月に話題となりました。

千葉県・富津市では防災無線から流れる「夕焼け小焼け」の唱歌に対して、一部の市民よりうるさいとの苦情があり「廃止の危機」に追い込まれたそうです。

しかし、25年間続けられたことにより生活の一部となっている。という復活を望む声も多くあったため、7月には放送回数などを改善し再び流されるとのことでした。

それぞれの地域住民の受け取り方を決めつけるべきではありませんが、誰もが知っている唱歌は心和むものではないかと、個人的には考える次第です。

以上